



二輪草だより

2023年12月号
発行:二輪草センター



年末年始のお休み期間は12月29日～1月3日です

第9回 二輪草ベストサポーター賞・受賞者の声

2023年8月下旬より募集を行っていました二輪草ベストサポーター賞に2名の方が選ばれました。おめでとうございます！

医療安全管理部 看護師GRM 中村 智美師長



育児は出産前後だけでなく10年以上もの長期間にわたるため、看護師のキャリアにも大きく影響します。育児サポートシステムを利用する側も、情報収集して長期的なキャリア展望も含め両立に向け計画すること、また計画した通りにはいかない事の方が多いため、先輩・同僚などからアドバイスをもらうなどして様々な試練にも向き合っていく必要があります。

看護師長として看護師の育児とキャリアの両側面から支援したいと思い、スタッフとの面談ではキャリア展望も含め話し合うことを大切にしてきました。後輩たちが働くママさんやイクメンの背中をみて、自分の将来像・キャリアも描けるようになることを願い、サポートさせていただいております。

経営企画課 高橋 伯明係長



今回はこのような素晴らしい賞を頂き有難うございます。これは私が何かをしてきたわけではなく、係員みんなが業務をサポートしてくれているおかげだと思っています。子供を育てながら働くというのは本当に大変だと思います。私の娘も道外で二人の子供を育てながら看護師をしておりますが急な発熱などで休むことも多いが職場の皆がサポートしてくれると話していました。他の病院でもさまざまな働き方を選択できる仕組みを作ったり、子育てを支援しているところが増えていきます。診療情報管理係でも男女問わず子育てがしやすく休みやすい職場となるよう、係内で協力して助け合える環境づくりが出来たらと思っています。

病児一時預かり室、バックアップナース、病児・病後児保育室、カウンセリング相談 【11月20日～12月19日までの利用状況】

病児一時預かり室	依頼回数	0回	利用回数	0回
バックアップナース	依頼回数	27回	稼働回数	26回
病児・病後児保育室	依頼回数	15回	利用回数	9回
カウンセリング相談			利用回数	1回

【お問い合わせ先】

旭川医科大学 二輪草センター(復職・子育て・介護支援センター)
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1
TEL 0166-69-3240(内線3240) サンニンヨレ FAX 0166-69-3249
開設時間8時30分～17時15分 E-mail: nirinsou@asahikawa-med.ac.jp
ホームページ <http://www.asahikawa-med.ac.jp/hospital/nirinsou/>



学生と看護職セミナー(二輪草セミナー) 形にとらわれないキャリアデザインー医療とアート・自分で築く働き方ー 実施報告

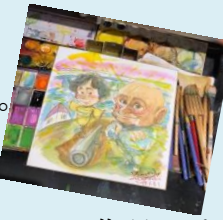
看護職キャリア支援 職場適応担当 平塚 志保



学生と看護職セミナー(二輪草セミナー)では、キャリアや生きがい、自分らしく生き生き働くためのキャリアデザインを考えることを目的とし、さまざまな分野で活躍されている方をお招きしています。今年度は、11月14日、似顔絵セラピー・プロジェクト村岡ケンイチ先生を講師としてお迎えし、新しいアートの世界を作り上げた先生の人生とともに、キャリアデザインとその考え方についてご講演いただきました。

まずキャリアデザインを考える上で先生が大切にしていることとして以下の3点を提示いただきました。

1. 自己分析：自分の性格や得意な人間関係、仕事
2. やりたい仕事の業界を調べる：どうして成功しているのか仕組みを調べる。他との差別化を考えオリジナリティを明確にする。
3. 時代の流れ：時代に求められているものに仕事は生まれる。



「似顔絵セラピー」は、患者さんの人生に寄り添い、その人生を患者さんとともに作品にする共同作業です。似顔絵とセラピー(心のケア)を掛け合わせることでオリジナリティを明確にし、それを社会で求められている「医療」の場で提供することで現在のスタイルが完成しました。

先生ご自身のキャリアとしては、4歳で似顔絵を描くことの喜びを感じ、大学生の時、コミュニケーションを通して心のケアができる似顔絵の魅力を見つけました。20代では、似顔絵の新しい可能性を発信し続け限界に挑戦しながら、似顔絵セラピーとして独立しました。30代では、似顔絵セラピーと距離をおく時期がありながらも再開し、同時にホスピタルアートの活動を始め、40代の現在は、ここからが本当の勝負と考え、医療とアートの学校を設立し、今までの経験を形にし、みんなで取り組む活動にシフトしています。これからのに関して、50代では、アートを処方できる教育の病院や自治体をつくり、60代では、中堅と若手が活躍できるようにバックアップしながら画家としての時間を大切にし、最後は地元に貢献する未来のキャリアデザインもお話しいただきました。

また、たくさんの患者さんの似顔絵がつながる笑顔のエピソード、話をしてくれない患者さんのキーワードを引き出すコミュニケーションのコツ、ホスピタルアートやまちづくりの実際、医療とアートの文化等も紹介いただきました。

講義後のアンケートでは、「芸術と医療の融合は興味深い視点だった」「戦略的なキャリアデザインの講義はとても面白かった」「職員・患者ともにアートで楽しめる環境ができればよいと思った」「患者の話を聞きながら鍵となるものを見つけて似顔絵に取り入れていくところは全人的視点で看護にも通じるものを感じた」などの記載がありました。

形にとらわれないキャリアデザインとは、固定観念に縛られず自分の得意なことから新しいものを編み出す過程であり、自分のビジョンを実現するには、広い視野で物事を捉え、長期的な視点で先を読み、ぶれない信念とモチベーションを維持し、さらに様々な人々との関係を築くコミュニケーション力が重要であると感じました。

先生には、日中に似顔絵セラピー、夕方にご講演というタイトなスケジュールにも関わらず、終始素敵な笑顔でお話しいただきました。心より感謝申し上げます。

